



絵・文/大島都幾枝さん (大字本郷出身)

たんぼぼの旅立ち (大字番匠地内)

ときがわ町の玄関口、明覚駅はいつか描いてみたいと思っていたモチーフだ。

構図に迷いながら周辺を歩いていると、電柱の陰にたんぼぼの草むらを見つけた。

振り返ってみると、いい具合に駅舎が見える。

〈たんぼぼの綿毛↓旅立ち↓駅〉

ぴったりハマって、わくわくしながら描いた一枚。



【編集後記】 山の新緑も深みを増してきた今日この頃。若葉マークだった広報担当も今は昔。現在は、花粉を放出できそうなほどに成熟しきってしまいました。花粉は、植物が新しい命を生み出すために必死に放出するものです。空を黄色く染めるほどのその命の輝きは、多くの人間の枕を濡らします。そんな超常現象並みの自然の神秘に対して人間は無力で、かみさまにすぎるほかないのでしょうか。町内に広報紙を撒いて、人々に影響を与えることを生業としている私は、花粉に少しの親近感(←)。【保坂】

